

学校法人帯広大谷学園未来メッセージ 優秀作品（区分B：中2⇒高2部）

タイトル	
作品形式	作文
在学学校（応募時／現在）	帯広市内中学校2年／帯広市内高等学校2年
氏名	H・M

私は今、〇中をまとめる最高学年になろうとしている。修学旅行、最後の学校行事があり、どきどきわくわくのはずだった。しかし、先月あった学年末テストで過去最低順位になってしまった。目指している高校へ行けるのだろうかと将来の不安が波のように押し寄せている。

私は、医療関係の仕事に興味があるだけで、絶対にこれがやりたいというものはない。しかし、本当にこの仕事に就きたいと思う日が来るはずだ。その日が来たら、その仕事に就くまであきらめないでほしい。途中でもう無理だと思ったり、もっと簡単な仕事に就こうという考えをもたないでほしい。なぜなら私は、やればできると思っているから。定期テストが悪かった時、母はこういった。「Mは、やればできる子なんだもん。やらないから、やろうとしないから、点数、順位はあがらないんだよ」と。最初はイラッとしたが、考えると母は私のことを信じてくれているのだろうか、ほめてくれているのだろうかと感じ、うれしくなった。しかし、母にそう言われているということは、今の私にはできていないということ。3年後には、誰かに言われてなくてもやる、そして、自分ならできると思っていて欲しい。

3年度、あきらめずに自分がやりたいと思った仕事についていたならば、また、壁にぶつかって立ち直れないと思っても、自分ならできると、その壁を乗り越えることができたならば、今と3年後の『約束』は果たせたと言ってもいいのだろう。

私は、この母のひと言で人生が変わるかもしれない。母からもらった言葉を大切にしていきたいと思う。そして、3年後との『約束』をはたすため、日々、勉強に励んでいきたいと思う。